

平成 30 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名

海田町立海田東小学校

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

本校では朝ごはんの内容の充実、食事マナーの定着を課題とし、昨年度から継続して取組を行っている。朝ごはんについては昨年度の生活しらべの結果から、約 98%の児童が朝ごはんを喫食しているが、主食のみ食べている児童が最も多く、内容に課題が見られる。食事マナーについては、給食時間や食に関する指導の中で食べ方等の指導を行うと、その日の給食時間から改善に向けて取り組む姿勢が見られるが、その後の食習慣に定着していないのが現状である。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

今年度は、朝ごはんについては、朝ごはんを喫食する児童の割合を 100%、主食・主菜・副菜等、3つのおかずを組み合わせて食べる児童の割合を 25%以上とすることを目標とし、食事マナーについては昨年度に引き続き、栄養教諭による給食時間における食に関する指導を 1日1学級・1週間程度継続して行い、正しいマナーで食事をすることができる児童を学級の 80%以上とすることを目標とした。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組 1】（テーマ）朝ごはん：参観・懇談を利用した保護者へのレシピ紹介・試食提供



低・中学年では参観日に朝ごはん指導を学級活動で行い、保護者へも朝ごはんの内容充実について伝えるようにしている。また、参観後の懇談会で栄養教諭による朝ごはんや野菜を取り入れた簡単レシピの配布、実際に味を知ってもらうために、そのレシピの中の 2品を準備し、試食提供を行った。保護者からは「野菜のくせも気にならずおいしい」「包丁いらずで簡単なので、早速作ってみます」との声が聞かれた。

【取組 2】（テーマ）食事マナー：給食時間における全体及び個別指導の実施

食事の準備・食べ方・片付けのマナー定着に向けて、低・中学年を中心に、1日1学級・1週間程度継続して、給食時間に指導を行っている。今年度は安芸郡小学校教育研究会の栄養部会・食育主任会でも食事マナーについて研究・指導媒体作成を行い、特に、食べる時の姿勢や食器・はし等の正しい持ち方について指導を行った。継続して同じ学級を指導することでマナー定着を図るとともに、食事マナーに課題のある児童の把握も行い、個別指導へつなげている。



【取組3】(テーマ) 食事マナー：学級活動における食に関する指導でのマナー指導の実施

食事マナーをテーマとした学級活動における食に関する指導を行っている。いずれの指導においても、振り返りシートやがんばりカードに保護者からのコメント欄を設けることで、学校で行っている食育を伝えるとともに、家庭でも継続して実践できるよう促している。第1学年においては、給食で1年間を通してできるようになったこと、食べる時の正しい姿勢や食器・はし等の持ち方、給食をきれいにつぎ



わけること等、次の学年に向けて改めて身に付けていきたいことを自ら考え、その後の給食で1週間取り組むことができるようにした。

第3学年においては、引き続き、正しいはしの持ち方や使い方のマナーについて指導を行った。昨年度の反省から、まずは児童の手の大きさに合ったはしを使用することが正しい持ち方へもつながることを示し、保護者への資料配布も行った。保護者からは「はしの長さまで考えていなかったで、手に合ったものを用意したい」「家でもはしのマナーについて話してくれました」等の声が聞かれた。

4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

毎年、ひろしま給食100万食プロジェクト県内統一メニューに海田町の特徴あるメニューを組み合わせた「海田ひろしま給食」をひろしま食育ウィークに提供している。今年度は、海田町食育推進計画の取組のひとつである「350！かいたベジ食べるプロジェクト」のかいたベジ食べるスープコンテストで優秀賞に輝いた「体喜ぶ♪プチプチスープ」と組み合わせて提供し、スープレシピ配布等で、海田町の取組もあわせて紹介した。



また、今年度も「東小まつり」で保護者と連携し、今年度のひろしま給食のうち4品の調理を行い、バザー会場で、保護者や地域の方々に試食を提供した。家庭でも作って食べることができるようレシピを配布したり、作り方をアドバイスしたりしながら働きかけた。

さらに、今年度からの取組である、ひろしま給食100万食プロジェクト「朝食リーフレット」を活用するため、児童が普段の自分の朝ごはんを振り返りながら、足りないおかずを知り、それぞれのレシピを自由にとることができるよう、参観日等で保護者も来校する時期に合わせて掲示物の工夫を行った。

さらに、今年度からの取組である、ひろしま給食100万食プロジェクト「朝食



5 取組に対する成果と課題

【成果】

(朝ごはん)

- ・ 参観日の機会を利用した授業や懇談会でのレシピ紹介・試食提供を実施し、保護者にも伝えることで、家庭での食育への意識付けをすることができた。

(食事マナー)

- ・ 1日1学級の指導を継続して行うことで、個別指導を充実させることができた。食器を持たずに食べていた児童が注意しなくても食器を持って食べることができるようになった、苦手なものは一口も食べられなかった児童が少しずつ量を増やしながら給食時間内に食べることができるようになった等の行動変容が見られた。

【課題】

(朝ごはん)

- ・ 朝ごはんを喫食する児童の割合は約98%と昨年度から変化が見られず、主食・主菜・副菜のそろった朝ごはんを食べた3年生以上の児童の割合は14.6%であり、内容の充実に至っていない。

(食事マナー)

- ・ 低・中学年においては継続した指導をすることで行動変容も見えやすいが、高学年においては、今までの食習慣が身につけてしまっているため、学校での指導だけではなかなか行動変容が見られない。

6 今後の取組に向けた改善方策について

朝ごはんの内容の充実については、家庭との連携が不可欠であるため、来年度は夏季休業中の朝ごはん親子料理教室の実施や、朝ごはんを喫食していない家庭への健康相談の実施を予定している。食事マナーの定着については、校内では全体指導・個別指導を充実させるため、引き続き、学級担任等と連携しながら給食時間及び学級活動における食に関する指導を行っていききたい。また、その内容を保護者にも伝えることで、学校と家庭が連携した継続的な指導を行い、児童の食生活の変容につなげていきたい。